

はっくつ 2014

河川の底から波板状凹凸遺構発見

蜂屋(はちや)遺跡

古墳～平安時代

蜂屋遺跡は、中ノ井川流域にひろがる遺跡です。近年の調査では、白鳳時代から奈良時代にかけての古代寺院の発見や陶製の土馬や銅銭195枚が出土し話題になりました。

今回の調査では、古墳時代から奈良時代にかけての河川と平安時代の建物、溝などが確認されました。河川は、南東から北西方向に向かって延びており、確認した大きさは幅19から26m、深さ0.8m前後です。注目されるのは、河川の底にたくさんの連続する穴が多数確認され、ある決められた一定の方向に穴が5つから9つ程度並んでいます。穴の形は円形、楕円形などさまざまですが、形や大きさから判断すると、一つの単位は、長さが3から8mで、その単位をさらにつなげることによって成立していたようです。年代的にはおそらく奈良時代以降のものと思われます。

このような跡は、考古学の世界では波板状凹凸遺構と呼ばれており、道路を建設するときの基礎

工事跡とか牛車が通行した跡などいろいろな説があります。しかし道路に関連するものであるということではほぼ意見が一致しています。下鉤東遺跡1996年度調査でも確認されていますが、直ぐそばに旧東海道が通っており古代の東海道にかかわるものだと推定されています。

いっぽう河川の西岸南側には、掘立柱建物が2棟確認され、河川がほぼ埋まった後の平安時代に屋敷がつくられたようです。(近藤)



河川と波板状凹凸遺構(南側)



波板状凹凸遺構周辺(北側)



掘立柱建物と埋まった河川

全国でもめずらしい地鎮祭祀跡の発見

手原(てはら)遺跡

奈良～平安時代

手原遺跡で確認された遺構は、奈良時代末期から平安時代を中心とする掘立柱建物、井戸、地鎮祭祀跡などです。平安時代前期の掘立柱建物はいずれも大型の建物で、役所関連の施設もしくは豪族の屋敷と推定できます。

地鎮祭祀の跡は、大型の掘立柱建物周辺から4か所確認され、そのうち古代銭貨を埋納したものは2か所存在し、和同開珎と神功開寶を埋納したものと、富壽神寶を埋納したものがあります。建物と地鎮祭祀の跡は、出土した遺物および配置関係からセットになると考えられ、いずれも大型建物周辺の広場から出土しています。

ところで4つある地鎮祭祀跡のひとつには、穴の4隅に杯4点を伏せて置き、さらにその隙間に富壽神寶5枚をいれた小さな甕に、杯で蓋をしたものを中央と東西南北の4か所にそれぞれ置き、十字配置になるように埋められていました。地鎮祭祀の遺構は全国でも多数確認されていますが、8方向に土器を配置した事例は全国でも非常にめずらしい事例といえます。

このような特殊な土器の配置は、密教や道教に係わるものだという考え方があり、古代人の祭祀（地鎮）に対する信仰や思想のありかたを解明していくうえで重要な発見となりました。（近藤）



特異な配置の地鎮祭祀跡



甕の中に入れられていた富壽神寶



奈良時代から平安時代の掘立柱建物群と地鎮祭祀跡

方墳と竪穴建物を発掘

高野(たかの)遺跡

古墳時代



方墳 完掘状況

高野遺跡は、葉山小学校や葉山中学校周辺に広がる遺跡です。これまでの発掘調査で、古墳時代前期から中期（3世紀から5世紀）の竪穴建物（住居）約200棟と20基ほどの古墳が発見されています。

今回紹介する古墳は、共同住宅を建設する事前調査で見つかりました。古墳は四角い形の方墳です。墳丘は後世の開墾などで削平されていて、墳丘の周りに掘られた溝だけが残っていました。溝の幅は2.5m、深さは45cmで、この溝を掘った土を盛り土として墳丘を作ります。今回の調査区からは溝の3分の1しか確認できませんでしたが、調査区西隣で1987年に実施した調査でもこの方墳の一部が見つかっていて、大きさは溝の外側で16m、溝の内側（墳丘）で11mに復元することができました。高野遺跡で発見された古墳の中では比較的規模が大きいことから、集落内で地位の高い人物が葬られたのだでしょう。



方墳 検出状況



竪穴建物 土器出土状況

その他、方墳より少し古い時期に作られた竪穴建物（住居）3棟が見つかり、古墳時代前期の土器がたくさん出土しました。

（佐伯）

奈良時代の大規模な建物と井戸を調査

手原(てはら)遺跡

奈良時代



調査地 全景

手原遺跡は、JR草津線手原駅周辺に位置する遺跡で、飛鳥時代から平安時代にかけて寺院や役所が置かれていました。今回の調査は、手原駅の北側で、共同住宅の建替えに先立ち実施しました。

調査区北東で検出した掘立柱建物SB1は大規模な東西棟で、長辺は7間以上、短辺は2間で南面に庇が付きます。7間×2間とすると、16.4m×5.2mで、床面積約84㎡。柱穴掘方は一辺約1m、深さ70cm、柱痕跡の直径は30cmを測ります。この建物は手原遺跡の建物群の中でも大規模なもので、役所機能の重要な位置を占めた建物とみられます。

SB1の東側でみつかった井戸は、掘方長辺4m、短辺3.3m、深さ4.6mの大規模なもので、底に残存していた木製の井戸枠は一辺約1.2mを測ります。井戸は埋められる過程で多量の土器が廃棄されていました。また、井戸底からは奈良時代(8世紀)の須恵器広口壺5点が出土していて、土地や水の神への捧げ物と思われる。(佐伯)



大規模な掘立柱建物 SB1 左半分は1992年度調査地



井戸調査風景



はっくつ 2014 栗東市話題の発掘調査

発行日 2015年3月31日

編集発行 公益財団法人栗東市体育協会
〒520-3011

滋賀県栗東市下戸山47番地

栗東市出土文化財センター内

TEL077・553・3359 FAX077・553・3514

印刷 マルキ印刷株式会社